

れい わ ねん がつこのか げつ ぜんこうちようかいこうちようこう わ  
令和8年2月9日(月)全校朝会校長講話  
じぶん かん かんが  
自分なりに感じ、考える

いま ねん いじょう まえ わ だい じどう ごしょうかい  
今から40年以上も前に話題になったことですが、児童のみなさんに御紹介  
したいお話があります。あるテストでの問題のことで。そのテストには、「氷が  
とけたら何になりますか。」という問題があったのだそうです。氷は、温めてとか  
せば水になりますね。

さて、この問題に対して、「春になる」と答えた人がいたというのです。なるほ  
ど、寒い冬が過ぎて暖かくなれば、雪や氷がとけて、やがて春を迎えますね。  
「春になる」と答えた人は、きっと、冬から春になる様子を思い描いていたので  
しょう。

ところで、この問題を出した先生は、この、「春になる」という答えが出ること  
を予想していたのでしょうか。それは分かりませんが、問題の出し方によっては、  
あらゆる答え方が正解になり得ると言えます。この問題の場合、問い方があや  
ふやだったのです。そのような問題は、答え方に迷うことがあるため、本来、先生  
というのは、問題の出し方をよく考えているのです。

答えを一つに絞らなくてよいものもあります。その一つが、「作品の見方」で  
す。友達が作ったものを、自分が見てどのように感じ、考えるのかは、見る人の  
数だけ違いがあって構わないと校長先生は考えています。このとき、自分なり  
の感じ方や考え方をもち、できれば、それを言葉にできるといいなと思っていま  
す。校長先生のお話、終わります。